

広げよう福祉の輪！

三徳だより

第88号 2016年(平成28年)夏 一季刊—
発行：社会福祉法人三徳会



平成28年5月1日開設
平塚橋特養ホーム全景

特別養護老人ホーム 成幸ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0053 品川区中延1-8-7 TEL.(代)03-3787-3616 FAX.03-3783-6580 santoku-seikou@ap.wakwak.com

品川区立戸越台特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0041 品川区戸越1-15-23 TEL.(代)03-5750-1054 FAX.03-5750-1055 santokukai.togoshi-h@proof.ocn.ne.jp

杜松在宅介護支援センター <http://www.togoshiginza.net/togoshi/machi/topics/topics.cgi>
〒142-0042 品川区豊町4-24-15 TEL.(代)03-5750-7707 FAX.03-5750-7709

品川区立荏原特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0063 品川区荏原2-9-6 TEL.(代)03-5750-2941 FAX.03-5750-3695 santokukai@aw.wakwak.com

小山台在宅介護支援センター
〒142-0061 品川区小山台1-4-1 TEL.(代)03-5794-8511 FAX.03-5794-8512

品川区立平塚橋特別養護老人ホーム・ショートステイ
〒142-0063 品川区西中延1-2-8 TEL.(代)03-5750-3632 FAX.03-5750-3642 hiratsuka-ow01@santokukai.com

品川区立小山在宅サービスセンター「小山の家」
〒142-0062 品川区小山7-14-18 TEL.(代)03-5749-7251 FAX.03-5749-7252

小山在宅介護支援センター TEL.(代)03-5749-7288 FAX.03-5498-0646

平成28年5月1日、平塚橋会館跡地に、新しい発想で世代間の交流型高齢者複合施設が生まれました。

ここには個室ユニット方式の特別養護老人ホームとショートステイ、多世代が利用可能なニュータイプのシルバーセンター、言語聴覚士による小児の構音、吃音などの発達障がい、成年の脳卒中などによる脳機能障がい、高齢者の嚥下機能障がいなどの相談事業も用意いたしました。

また区営住宅も新築されます。これを区立民営（社会福祉法人）で行うため、品川区は平成24年4月、品川区外の社会福祉法人にも公募の参加を呼びかけました。この平塚橋の位置は、三徳会成幸ホームと区立荏原ホームの中間にあり、区立戸越台ホームも近く、戸越で生まれ中延で育ち、荏原地区の高齢者事業を行ってきた私にとっては絶対に他法人には渡せない、荏原地区の人々は三徳会で守るという決意から応募しました。

品川区は、この施設整備・運営に当たっては区とのパートナーシップのもと、良質なサービス、安定的な運営を望んでおられました。もとよりそれは私どもの望むところであり、全職員も「よしやろう」と強い気概と大きな希望を持って協力してくれました。

平塚橋に 高齢者施設誕生 —その経緯と内容—



社会福祉法人 三徳会
理事長

内野 滋雄

幸いにして、平成24年7月、5つの社会福祉法人の中から三徳会が選定され全ての職員が喜びを分かち合いました。同時に責任の重さを感じ、すばらしい運営をして区に感謝の気持ちを表そうと心に決めました。さて、内容を少し説明しましょう。

特養でユニット型というのは、食事、入浴、交流など幾つかの生活に必要なものを組み合わせて生活の場を作り、平塚橋では10名のグループで家族的な生活を送ることになります。それを1ユニットと数えます。これが10ユニットあり定員は100名です。ショートステイは12名で1ユニットです。入居者は一人ずつ個室を持ち、プライバシー

は守られます。ユニット型は仲間と寄り添いながら、手を取り合って家族的な生活ができることが特徴です。

多世代型交流支援施設の名称は「平塚橋 ゆうゆうプラザ」です。シルバーセンター機能と多世代の人々の利用・交流ができる地域に開かれた施設です。健康維持・増進・生きがいづくり・趣味・学習、子供から高齢者までの交流が期待されます。

平塚橋での独創的な先駆事業は、小児から成人、高齢者までの言語聴覚士による専門的相談事業です。言語聴覚分野には、小児の構音、吃音などを含めた発達障がいの専門家、成人の脳卒中後の発達障がいの、高齢者の嚥下機能低下による誤嚥などの専門家がいます。これらの専門家に来ていただき、相談・専門医への紹介など、また歯科医による専門的相談も考えております。これらは高齢者施設ではみられず、本邦初だと思えます。

昨今、介護者の不足が大きな問題です。平塚橋では50名以上の採用が必要でしたが、若手の事務職員の新しい発想で見事にクリアできました。

平塚橋をよい施設とするにはボランティアの方々、近隣の方々のご協力、ご支援が必要です。どうかよろしくお願い申し上げます。

こころの健康からみた『終活』と『終括』

講師 飯森 眞喜雄先生 東京医科大学名誉教授
いいもりこころの診療所 所長

平成28年2月27日(土) 荏原文化センター



今回は精神科医の飯森眞喜雄先生をお迎えし、よい人生の締め括り「終括」をテーマにした懇談会でした。懇談会の最後には品川で生まれ育ち、そして見事に「終括」をした島倉千代子さんが亡くなる3日前に病床で歌った「からたちの小径」が流れ、参加者それぞれが、自分らしい「生と死」を考える機会となりました。



今ではお馴染みになった「終活」という言葉は、2009年頃に週刊誌で使われた造語だそうです。この「終活」とは、自分の葬儀やお墓について考えたり、財産や相続についての計画を立て、身辺整理をしておくというもので、残された家族に迷惑をかけず、安心して余生を過ごすための活動です。

私は「終活」を「終括」と考えます。葬儀やお墓の準備も大切ですが、よりよく死ぬことは、「残された時間をよりよく生き、いかに有意義に締め括る(くくる)か」ということです。「人間としての成長を見出す」ことこそが終括期の役割です。

「終括」を妨げるもの

高齢になるまでいきいきと暮らした人でも、疾患や身体の不自由、痛み、ストレス、不眠、うつ病などでよい締め括りが妨げられるときがあります。特に「うつ病」は、高齢者の生活の質を妨げる大きな要因になる病気です。

うつ病は「気の持ちよう」や「精神力」で起きたり、治るものではありません。うつ病になると眠れなくなったり、食欲もなくなり、引きこもりがちになり、進行すると生きているのが辛くなつて自殺につながることもあります。

うつ病の患者数は、この10年で、約2倍に増加し、高齢化とともに老年期に増えていきます。また、身体の症状から大半は内科などを受診するまゝに、「原因不明」や「気のせい」と言われそのままにしてしまうことも多く、精神科を受診する

人はまだ少ないのです。うつ病は意欲や気分を司る脳内の精神伝達物質の低下、わかりやすく言えば「エンジンの使い過ぎ」によるガス欠状態です。精神科の先生に相談し、きちんと服薬治療をすれば必ずよくなります。

「終括」を豊かにするには

～著名人の言葉から考える～

年をとつても、まずまずの健康があり、外へ出て歩いたり、おしゃべりをして楽しく日常を送ることが大切です。また、楽観主義であること、青春時代の復活、それなりのお金を持つことです。チャップリンは、「人生に必要なものは、勇気と想像力。それとほんの少しのお金です」と言いました。

○大いなる楽観主義で行こう

シエークスピアは、「今年死ぬものは、来年死なずに済む」、「死んでしまえば何もかも帳消しだ」と言いました。また、漫画家の水木しげるは、18歳のときニューヨークの最前線で、左腕を吹き飛ばされて10cmだけ残るといふ壮絶な体験をしました。命からがら復員した時にお父さんは「これくらい(腕が)なくちゃダメだな……」と言ったそうです。水木自身が、腕を失くしても深刻にならなかったのは、父親の楽観主義が子に継がれたからではないでしょうか。彼の楽観主義は亡くなるまで続き、最期は「寝ぼけ死」という93歳の大往生を成し遂げました。

○青春時代の復活

「年をとるほど、青春の夢に忠実であれ」

(シラー/ドイツの詩人)

「私は年をとるにつれて、幸福の反対を不幸だと思わなくなった。幸福の反対は怠惰

とつものではなからうか」

(亀井勝一郎/文芸評論家)

老年期に入ると、それまで学んだものが死生観として出てきます。歳を重ねただけでは人は老いず、青春を失う時に初めて老いるのだと思つたのです。老年期とは、ずっと潜んでいた青春時代を今一度取り戻すことです。それが「終括」です。

○健やかな「終括」に向けての4箇条

① 教養とは「今日用がある」ということ

② 教育とは「今日行く所がある」ということ

(多胡輝/心理学者)

③ 颯爽と！

④ The youngest day of my life ～今日は私の一番若く日だ、朝起きたときにそう思つてください。

(渡辺和子/ノートルダム清心学園理事長)

この4つの言葉には、よい終括のヒントがあります。また、ペットと暮らしたり、学ぶ機会を持つ、外に出て自然とふれあい写真を撮ったり、絵を描いたり、俳句を嗜んだり……と行動することで、充実した日々を過ごすことができます。老年期にひとりになつても「おひとりさまは気楽で自由の身」と思つて、孤独や寂しさは消えていくでしょう。

○名もない老婆の口癖

最後に、7人の子を育て、腰が曲がるほど働き、信州の山奥から一歩も出ずに生涯を終えた老婆がよく話していた言葉で終わりにします。

「大切なことは、いくら辛くても何があつても、よいことはいつも思っているものだ……」。

(飯森眞喜雄先生の講演をもとに構成しました)

◆落成式が行われました

平成28年4月27日に落成式を執り行いました。濱野健品川区長をはじめ、70名を超える多くの方々が参加され、平塚橋施設の開設をお祝いしていただきました。

落成式後には一般の方々の見学会を開催。3日間で1140名の方々が来所され、「平塚橋ゆうゆうプラザ」と「平塚橋ホーム」への区民の方の期待の高さを感じ、改めて気が引き締まる思いでした。これから、高齢者と多世代が交流できる地域の拠点としての役割を果たすために、様々な取り組みを展開していきます。



大勢の人で賑った見学会

◆平塚橋特別養護老人ホーム

定員／特養100名
ショートステイ12名

開設前の4月1日より、入居に向けて必要な物品の整理や職員研修などの準備をしてきました。5月1日の入居開始日に5名の方が入居され、日に日に賑わいが増しています。

平塚橋ホームのコンセプトは【ここから】【くらす】【よりそう】【つながる】です。全室個室・ユニット型の特性を活かし、ここから始まるご利用者の暮らしに寄り添い、ホームでの生活を支えています。

先日は往原平塚学園の運動会に応援に行ったり、中延小学校で開催されたホタルの観賞会に出向いたり地域行事には積極的に参加しています。これまで三徳会として培ってきた地域との結びつきを活かせるよう、中学校の行事や、地域の行事、商店街などに出掛け、平塚橋ホームが少しずつ地域とつながることができるようになっていきます。



戸越銀次郎も応援に



内野滋雄理事長の挨拶

◆平塚橋ゆうゆうプラザ

平塚橋特別養護老人ホームと同じく5月1日より事業を開始しました。今までシルバーセンターをご利用になっていた団体や個人の方々からは「新しくきれいでいいね」「広いね」などのお声をいただいています。また、新しい形の交流施設ということもあり、子育て世代の方々の利用もあります。学校帰りの生徒がトイレを借りにきたり、地域交流施設では幼児が遊んでいる姿も見受けられます。

濱野区長より、ゆうゆうプラザの「ゆうゆう」という名称は、悠々自適であると同時に、「友友（ゆうゆう）」として高齢者と子育て世代や子ども達が友達のような交流ができる施設にしたい、ということから名付けられたとのこと。平塚橋ゆうゆうプラザは高齢者多世代交流支援施設として開設しています。区長がおっしゃる「友友」を大事にし、誰もが集うことができ、そして交流を通じてお互いさまと支えあえるような関係を築けるように様々な取り組みを行っていきます。

平塚橋高齢者複合施設 5月1日 オープン!

2年間にわたり工事を行ってきた平塚橋高齢者複合施設が5月1日にオープンいたしました。工事の途中から何ができるのだろうとワクワクしながらお待ちになっていた方も多いと思いますが、これから地域の拠点となるような施設として、また、子どもから高齢者が気楽に交流できる場として役割を担っていきます。

◆言語・聴覚相談室

「ゆうゆうプラザ」内には、ことば（発語）、聞こえ（聴覚）、飲み込み（嚥下）に不安や違和感、障害がある方に対して言語聴覚士が相談に応じる相談室があります。この相談室は火・木・土曜日の14時から17時に相談を行っており、子供から高齢者まで幅広い年齢層の方々にご利用いただいています。平塚橋ホームのご利用者、地域で飲み込みに不安があるという高齢者や子どもの吃音の相談などを受付けています。少しでも気になる、という方は一度お越しください。

相談のお申し込みは電話か来所での予約をお取り下さい。

電話番号 03-5498-7021
(ゆうゆうプラザ内 言語・聴覚相談室)



広々としたロビー



1階のプレイルーム



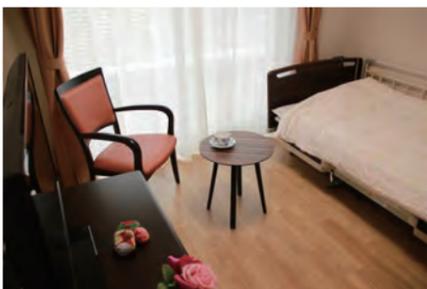
4階からの眺め



開放感のある吹き抜け



光が降りそそぐ中庭



ゆったりとした居室



くつろぎの共同生活室

▼情報公開について▲

三徳会では、地域の皆様方および関係する方々に三徳会に対するご理解ご協力をいただくため、平成26年度の決算の概要と事業報告を公開いたします。

紙面の関係からお知らせする内容は、概要のみとなっておりますが、詳しくお知りになりたい方は各施設の窓口にお申し出ください。

1. 平成27年度決算の概要 (平成28年3月31日現在)

① 貸借対照表

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	1,114,246,550	流動負債	320,333,565
固定資産	2,936,290,364	固定負債	146,256,352
		負債の部合計	466,589,917
		純資産の部	
		基本金	473,161,831
		国庫補助金等特別積立金	223,846,491
		その他積立金	1,509,179,752
		次期繰越活動収支差額	1,377,758,923
		純資産の部合計	3,583,946,997
資産の部合計	4,050,536,914	負債・純資産の部合計	4,050,536,914

② 財産目録

資産の部 負債の部 (単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産合計	1,114,246,550	流動負債合計	320,333,565
基本財産	956,392,099	固定負債合計	146,256,352
その他の固定資産	1,979,898,265		
資産合計	4,050,536,914	負債合計	466,589,917
		差引純資産合計	3,583,946,997

③ 事業活動計算書 (社会福祉事業区分)

(単位：千円)

科目	本部	成幸	戸越台	荏原	平塚橋準備	合計
サービス活動収益計	7,997	549,537	698,777	971,974	88,400	2,316,684
サービス活動費用計	37,936	560,981	695,091	947,100	65,349	2,306,458
サービス活動増減差額	△29,939	△11,444	3,685	24,874	23,051	10,226
サービス活動外収益計	5,551	918	1,279	1,917	72	9,737
サービス活動外費用計		22	237	341	0	600
サービス活動外増減差額	5,551	896	1,042	1,576	72	9,137
経常増減差額	△24,389	△10,549	4,727	26,450	23,122	19,362
特別収益計	22,845	7,500		2,000	224,000	256,345
特別費用計	△2,338	13,432	6,374	14,144	111,270	142,882
特別増減差額	25,183	△5,932	△6,374	△12,144	112,730	113,463
当期活動増減差額	795	△16,481	△1,647	14,306	135,852	132,825
前期繰越活動増減差額	22,060	720,144	233,366	325,256		1,300,827
当期末繰越活動増減差額	22,855	703,663	231,719	339,562	135,852	1,433,652
その他の積立金取崩額	1,700					1,700
その他の積立金積立額	1,582				112,730	114,312
次期繰越活動増減差額	22,973	703,663	231,719	339,562	23,122	1,321,040

1. 三徳会では、法人が実施している社会福祉事業の財政状態、事業活動の成果及び収支の区分を報告するため、社会福祉事業区分を設定し、法人本部、成幸、戸越台、荏原及び平塚橋準備の5拠点区分に分類しています。

2. 千円未満を四捨五入しての関係で縦、横の合計が一致しないものがあります。

3. 詳しくお知りになりたい方は、各施設の事務室にお尋ねください。

※注) 平塚橋準備は、平成28年5月開設の平塚橋特養ホームの開設準備拠点区分である。

2. 平成27年度事業の主な実績 <各施設利用状況>

① 特別養護老人ホーム（平成28年3月31日現在）

施設名		成幸	戸越台	荏原
定員		80人	72人	120人
現入所者	男性	13人	14人	17人
	女性	65人	57人	100人
平均年齢		88.2歳	91.3歳	90.7歳
最高年齢	女性	108歳	105歳	105歳
	男性	92歳	97歳	96歳
平均要介護度		3.6	3.8	3.8
平成27年度新入園者		19人	29人	48人

② 在宅介護支援センター

（単位：件）

施設名		成幸	戸越台	杜松	荏原	小山	小山台	合計
要介護認定調査件数		529	409	595	519	611	338	3,001
相談者数		13,214	8,882	10,987	11,118	10,951	6,658	61,810
居宅支援件数		4,541	4,042	4,160	3,991	4,094	2,886	23,714
内訳	要介護1～5	2,486	2,151	2,461	2,068	2,139	1,753	13,058
	予防	2,055	1,891	1,699	1,923	1,955	1,133	10,656

③ 在宅サービスセンター

（単位：人）

施設名		成幸	戸越台	荏原	小山	合計
基本デイサービス(定員)		20	30	40		90
基本デイサービス(延)		4,825	8,163	10,372		23,360
内訳	予防事業	1,364	2,712	3,193		7,269
	介護給付	3,461	5,451	7,179		16,091
平均要介護度		1.9	1.9	2.1		
認知症デイサービス(定員)		10	10	10	10	40
認知症デイサービス(延)		1,883	2,393	2,489	2,421	9,186
平均要介護度		2.2	2.1	2.1	2.1	
身近でトレーニング(延)			(定員15) 1,643	(定員15) 734		2,377

身近でトレーニングは週1回実施

④ ショートステイ

（単位：人）

施設名(定員)	成幸(16人)	戸越台(8人)	荏原(30人)
利用者数(延)	4,471	2,877	10,965
平均要介護度	2.8	2.6	2.7

戸越台ホーム



「戸越台中学校の運動会に参加しました！」

5月中旬になると、戸越台ホームには、運動会の練習に励む戸越台中学生の元気な声が響いてきます。毎年運動会には、特養ご利用者、デイサービスご利用者は応援に行きます。中学校関係者は、テントの下のスペースを確保し、車いすでも見やすいように配慮して、お茶なども用意しています。

徒競走や集団競技に、ご利用者は手をたたきながら、大声で「がんばれ！」と声援を送ります。今年「玉入れ」の競技に参加しPTAの方々と一緒に頑張って、車いすの方も前のめりになりながらも一心に籠に向かって玉を投げました。そのかいもあり、ご利用者の参加していた白組が見事勝利！その時は中学生より盛り上がり、チームメイトと喜びを分かち合いました。「来年は一緒に走ろうか」綱引きもいかななど元気な声も聞かれました。

成幸ホーム



「HALが来た！」

最近「ロボット」という言葉を耳にする機会が増えてきていると思います。介護現場においてもそうした動きがあり、成幸ホームでは昨年度末に「ロボットスーツHAL」という装着型ロボットのデモ研修を行いました。

この介護スーツの説明を受けたのちに、実際に参加者が装着し体験を行いました。どの程度持ち上げた時の負担が軽減するかの体験で、座っていたイスを持ち上げましたが「軽く持ち上がった！」と驚きの感想が聞かれました。装着に多少の間隔がかかることや一度の充電で稼働できる時間が限られていることなど、改良されていけばさらに使いやすいですね、と感想がありました。これからの「介護スーツ」に期待が寄せられた機会でした。



小山の家



「毎年恒例！」

「夏野菜を植えました」

「今年も夏野菜を植えよう」との声があり、皆様と一緒に苗を買いに行きました。ナス、きゅうり、オクラは小山の家ではお馴染みの野菜達ですが、今回は新たにパッションフルーツ、すいか、メロンが仲間入り。

早速、植えようと土を掘り返しているとたくさんミニズミ達に遭遇。驚く職員を見て笑い声をあげたり、近所の方が肥料を分けてくださったりと賑やかに作業が進んでいきます。

ナスを植えながら「大きくなるんだよ」と優しく声をかけたり、「これは俺が植えたから大きくなるよ」と太陽にも負けない笑顔がご利用者もいらっしやいました。

皆様で植えた野菜達、大きく美味しく育ちますように♡

荏原ホーム



「新茶を味わいました」

日増しに暑さを感じるようになり、体調を崩したり、何となくやる気が出なかつたり…。

そんな気分をリフレッシュするため、この時期ならではの「新茶」を味わうことにしました。

新茶と言っても産地はいくつもありますが、今回は埼玉県産の「狭山茶」を選びました。苦みの中にも特有の甘みもあり、何ともいえないお茶の香り。もちろんお茶だけではなく、デザートにはご利用者にお手伝いをいただき「抹茶あんみつ」を用意し、新茶を味わいながら、抹茶ゼリー、きなこ、あんこ、生クリームと甘味を堪能しました。

八十八夜に摘み取られたお茶には、「無病息災で過ごせる」という意味があるそうです。今年の夏も暑くなりそうですが、元気に乗り切れるように、みなさんお茶をたくさん飲みましょう。

